



vivola 株式会社 代表取締役 CEO
角田 夕香里 さん

東北大学 地域イノベーション研究センター 賞

LEAP OVER 賞



不妊治療患者の 通院負担低減のための 遠隔診療システムのスキームの確立

角田夕香里さんは、大手メーカーでの研究開発を経て、社内新規事業立ち上げを経験したのちに、vivola株式会社を設立し、起業。ご自身が患者として婦人科系疾患や不妊治療で苦勞をした経験から、納得のいく治療生活

を送りたいと思いが生まれ、女性医療を事業領域とするスタートアップとして、女性の健康を AI で見守るサービスの開発に進みます。目指す道は、女性が自身の健康課題と主体的に向き合える世界の実現です。

患者目線で不妊治療の困難を解消する

角田さんがまず視野に入れたのは、不妊治療の課題をデータで解決するというアプローチでした。現代の日本の社会では、少子化、人口減少問題が深刻になっている一方、子どもを産みたくても産めない人が 50 万人に上り、早急に解決すべき社会課題です。角田さんは、自分自身の経験も踏まえ、患者側の目線で三つの課題を挙げます。

一つ目は、生殖に関するリテラシーの獲得です。不妊治療は自由診療であることから、治療方針や検査、費用などが、病院によってばらついてしまいがちです。これにより、患者は治療について体系的に理解することが難しくなり、自分が受けている治療に不安を覚えてしまいます。二つ目は、治療と仕事の両立です。通院の頻度が高くなることや、その都度、待ち時間が長くなること、さらに地方においては専門医が少ないことから、遠方の病院へ通わなければならないなどの事情が発生し、患者は、治療が仕事のどちらかを諦めねばならない状況へ追い込まれてしまいます。三つ目は、治療の長期化です。終わりの見えない治療が続くことで、患者の負担は、肉体的にも精神的にも大きくなってしまいます。

こうした課題の解決に向け、vivola では段階的に複数のソリューションの開発を手がけます。そのうちのひとつが、病院間の連携

(病病連携)を実現するシステムです。

vivola が提案するのは、別々の病院に勤める地域の医療者と生殖医療専門医の間で、高度生殖医療に関するデータ連携ができる遠隔医療スキーム。このスキームであれば、患者は採卵・移植など必要なときのみ専門医のもとへ通い、それ以外の検査などは近場の地域医療で行い、専門医の診療もオンラインで受けるという選択肢も生まれます。従来であれば専門医のもとへ 2 週間で 4~5 回の通院が必要だった患者の負担は、大きく軽減され、病院側も地域医療と専門医が役割を分担することで、効率的な経営につながります。



住 所 東京都渋谷区渋谷 3 丁目 6-2
エクラート渋谷 5F
U R L https://www.vivola.jp

創 業 2020 年 5 月 8 日
事業内容 不妊治療データ検索サービス、治療支援 SaaS の提供、
女性健康関連事業

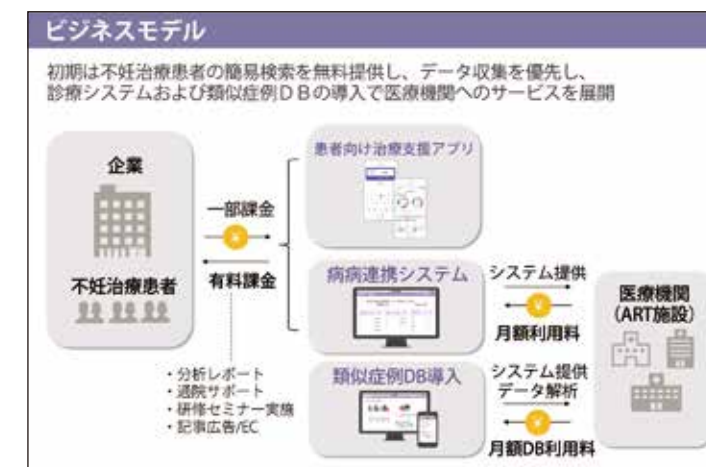


社会全体で不妊治療への理解と協力を

こうした社会課題は、1 社のアクションだけではなく、家庭や職場を含む社会全体の理解と、地域の協力が不可欠です。角田さんは、個別の地域に対して、不妊治療患者のインタビューやアンケートを通して医療アクセスの課題を理解し、医療機関の広域連携による治療環境の改善に問題意識を向けています。また、多くの人々に不妊治療という社会課題を理解してもらうことも重要です。福島県内では、郡山市の企業を対象に不妊治療に関するオンラインセミナーも開催。女性が働く職場の理解促進も目指します。角田さんは、こうした動きを通じて、患者の医療アクセスを上げることが、治療継続、少子化へもインパクトがあることを知ってもらい、医療の広域連携に向けた協力者を一人でも増やしていきたいと語ります。

地方で広域連携モデルをつくることで、全国、さ

らには海外への展開も構想する角田さん。不妊治療に苦しむ人を多く救う事業づくりに向け、福島県での挑戦は続きます。



cocoromiの紹介

■ 治療ログ&データ分析&コミュニティで患者の生殖リテラシーをサポート

2021年 4/22 iOS/android

生殖医療 専門医監修 齊藤英和先生

01 Google カレンダーの連携で 通院のスケジュール入力が可能

02 体外受精成功者の統計データと 自分と似た人の同質データが 閲覧可能

03 患者同士で治療内容や病院情報について カテゴリごとに 質問や情報交換ができる

Download on the App Store
GET IT ON Google Play